



THE MAGIC OF ROTARY

クラブ週報

五城目ロータリークラブ

○ クラブ広報委員会

(本年度第 20 回例会)

◎ 四つのテスト

第 2782 回例会
令和 7年 1月16日(木)
午前 12:30~



☆ 点鐘

◎ ロータリーソング : 我等の生業

◎ 会長の時間 : (今村会長)

・先週の新年会はありがとうございました。

最近では雪が少なく大変楽をしております。ところで、天候不順なのか、温暖化なのか？最近この周辺、国道を車で走っていると、井川町あたりの田圃に白鳥の大きな集団が目につきます。季節を勘違いしたのか？等と心配しています。また、九州（宮崎県 13 日）で地震がありました。その少し前に 1 月 7 日に秋田市沖で小さな地震がありました。秋田沖は今まで大きな地震の空白地帯と言われてきました。2024 年には 2 回ほど地震がありました。調べて見ると、この 20 年間に 50 回くらい地震があつて、震度 5 もあったようです。新聞テレビでは太平洋側の大地震の確率は出ますが、日本海側の話は出て来ません。

今日は川村会員のスピーチがありますが、来週の例会では 60 周年記念式典の講演とか、皆で話し合いたいと思いますので、よろしくお願いします。以上です。

☆ 幹事報告 (幹事代理)

＊ガバナーエレクト事務所から、次年度の情報について。次期会長、幹事、事務局、メールアドレス、戦略計画と委員会について。を送信しました。＊インタクト地区委員の選任については、次年度理事役員が決まっていないので、後日。

＊創立 60 周年については、話し合いは次例会で行いたい。



☆ 会員スピーチ (川村会員) 前置きは省略・資料配布

・今日お話しするのは、資料にあります『倫理資本主義の時代』ということで、最近この本を読んだので、ロータリーともかなり共通する部分もあると思ひまして、皆さんに紹介したいと思います。正月に暇だったので、いろいろ本を読みました。その中の 1 冊が今日お話しする『倫理資本主義の時代』という本で、あと最近、世界情勢がモヤモヤとなっていて、あんたん暗澹としているので、これから将来どういう風になるかというので『22 世紀の民主主義』という本と、それから今デジタル化とか、AI とか、いろいろ問題になっていて、選挙とかもかなり歪められていたりするというのもありますので、その本質というのは、如何いものがあるかと言うので、デジタル・・・『「ネット世論」の社会学』という本も正月に読みました。何かの機会がある時に、大変参考になる部分があるかと思ひまして、紹介したいと思います。

今日はこの『倫理資本主義の時代』の資料を 2 枚作ってきました。著者がマルクス・ガブリエルさんと言って、いわゆる哲学界では若くてスーパースターといわれる非常に著名な方です。それで原文をそのまま訳すと、デジタルデモクラシーを知る為の『倫理資本主義の時代』という民主主義、資本主義はどういう風に啓蒙発展させていくかというのを、哲学的に

解明した本で、私も3回ほど読みましたが、哲学書を和訳して、日本語に訳しているのも、非常に分かりにくくて、1回読んでもさっぱり分らないので、3回読んでやっと理解する様な、そんな本でした。難しいけれども大変参考になるということで、ここに書いてありますが、資本主義は民主主義と言うようなことを、幅広くこの中で取り上げています。現在「入れ子構造」になっているのが、大きな問題だという、「入れ子構造」というのは、人形の中に人形が居て、その中にまた人形が居て、どんどん小さくなって、そのまた中から人形が出てくるというのがあります。だから世の中、大きい中でみんなが小さく小さく同じような考え方になっている。そういう構造でないかと言う事の危機感を持ってしまして、道徳的な価値と、経済的な価値というのを、融合させていくべきでないか？という言い方をしています。その為には、倫理というのを非常に重要視しないといけないのではないかと、書かれています。例えば、^{おぼ}溺れかけている子どもがおりまして、その側で^{そば}アイスクリームを食べている人が居るといふ・・・子どもを助けないとはいけませんが、ソフトクリームを食べている所だから、子どもを助けるとソフトクリームを食べられない、となります。でもやはり子どもを助けないとはいけない・・・と言うのが倫理の本来の姿でないかと言う事を伝えているのです。それで、人を殺すのは倫理的に悪いと言われてはいますが、戦争の場合は人を殺すというのは、その場面場面で倫理に反する事では無い。それも倫理を使うけれども、本当の倫理というものはあるのではないかと・・・その倫理と言うのは、今世界的に合意されたという確かな倫理というものは、未だ見つけることも出来ないし、これから見つけていかなければならぬのではないかと、言うのがこの本の主旨です。先ほど紹介した「倫理とは何か」「資本主義とは何か」と言う事を交錯して、倫理と資本主義を合体させた様な形での道徳的な真実と言うのを導き出して、それを経済的に発展させている原動力にしないといけないかと、後半の部分では、その倫理資本主義の新しいビジョンとして「エコ・ソーシャル・リベラリズム」ということで、例えば、今の企業で「今だけ・金だけ・自分だけ」という儲け主義を、もう少し会社の中で営業経営部門の他に、独立した倫理部門というのを設けて、会社経営をしていくべきでないか？と言ったり、あとはAIは非常な進歩で進んでいますが、それに追いつく様な形での倫理と言うのが確立されていないのが、今の大きな社会の混乱している原因でないかというのが、この本の大きな概要です。

次に今日の例会の冒頭でこれと共通する様ですが、『四つのテスト』というのを読み上げましたが、『四つのテスト』は今月の「ロータリーの友・1月号」に載っていましたので、この意味を本当に理解するという事で、英語で並列して書かせて頂きました。この『四つのテスト』の“四”というものは、漢数字の四ではなくて、“四”というのは辻・四つの交差点の様な四と言うのもあるそうです。ということで、単なる四でなくて、大きな多面的な形で見なければいけないということです。一番上に「言行はこれに照らしてから」となっていますが、その中で英語の方では、think（考える）と言うのが抜けているそうです。というのは「言行はこれに照らしてから」と言うのは、その前段として良く考えてという事が、まず考えて判断するというのが、この前段に^{かく}隠れているそうです。なるほどと思いましたので、紹介していきたいと思います。この「四つのテスト」の言わんとしているのが、現代社会で今一番大事だというのが何か。やはり倫理的な誠実さというのが、この中で一番大事で、現在の社会にも繋がるのではないかと、要は私たち高い倫理観、道徳的規準をきちんと持った形で生活しなさい。企業活動をしなさい。と言うことを教えている。昨年、地球環境のお話しをした時に、環境倫理学と言う話をしましたが、また再度ここに載せています。環境倫理の3つの主張と言う事で、1、自然の生存権の問題 2、世代間倫理の問題 3、地球全体主義 で述べられております。先ほど紹介しました『倫理資本主義の時代』と「四つのテスト」とこの「環境倫理学」の中で共通しているのは、やはり道徳観、倫理観なんです。そ

うということで、倫理というのは個人の社会的、民族的とか宗教の違いとか、政治の違いとか関係なく普遍的な価値のあるものでないかと言うのを、この「環境倫理学」の方でも、この『倫理資本主義』の中でも、この「四つのテスト」の中でも、言われている事です。本当に先見性があると思いました。特に科学技術の分野では、科学技術が発達して、原子爆弾を作ったりとか、遺伝子操作をやるとか、医学では生体間移植ですとか、倫理と言うのは非常に当初から科学技術と倫理と言うのは一体だという形で進んできていますが、自由主義とか、経済的活動という中では、倫理というのは、時代時代でどんどん変わって来たりして、なかなか普遍的な倫理と言うのは、見つけ出せないのが、今の大きな問題ではないかと言われております。この「四つのテスト」は今から83年前の1945年頃すでに提案されている事と、その先見性が高いということで、ロータリーの活動と言うのは歴史もありますが、高い道徳観、倫理観でいろんな活動をしていると感じられましたので、この『倫理資本主義の時代』と言うのを本を通してロータリークラブの方の関係とも、環境の方の関係とも、いろいろ関係性があると、纏めて来ました。また機会があれば、ネット社会とか、デジタルの関係、これは面白い形でまとめられて、かなり批判的なところもありますが、参考になるところもありますので、時間があれば紹介したいと思います。「ロータリーの友」1月号にも目を通して頂きたい。 終わります。

☆ 会長より

・・私たちは職業奉仕（ロータリーの出来た時は、1業種1名）で、四つのテストは職業奉仕の根本で、正直に偽りのない商業活動をする。真実かどうか、が基本として進めてきました。

☆ ニコニコ（自己申告） なし

☆ 出席率報告

〔出席報告〕 12名中 7名出席 58 %
事前メーク0名、申告欠席 5名、病欠欠席 0名

【例会場】  グリーンロイヤル丸富
〒018-1706 五城目町字下夕町 248
Tel018-852-2140 Fax018-852-4049

☆ 点鐘（午後1：20）

ロータリー情報

川村会員スピーチ・資料より

RCの四つのテスト

ロータリーの友『Rotary 1(2025.1月号より)』引用
「四つのテスト」はハーバードJ・テラー（1893～1978）によって作られ、ロータリーの創立50周年記念にあたる1954～1955年度にハーブRI会長は、「4つのテスト」の著作権をRIに移譲。

「四つのテスト」(THE FOUR WAY TEST)

言行はこれに照らしてから (Of the things we think say or do ?)

1. 真実か どうか
(Is it the TRUTH ?)
2. みんなに公平か
(Is it FAIR to all concerned ?)
3. 好意と友情を深めるか
(Will build GOODWILL and BETTER FRIENDSHIPS ?)
4. みんなのためになるか どうか
(Will it be BENEFICIAL to all concerned ?)

現代社会が今一番必要としているものは倫理的誠実さである。四つのテストは、人びとが価値ある目標を追い求める際の指針として活用できる。その目標とは、友人を探し選び、その友人関係を維持すること、周りの人たちと友好関係を築くこと、幸福な家庭生活をつくりあげること、高い倫理的・道徳的規準を設定し身に付けること、自ら選択した事業や専門職で成功をおさめること、より良き市民となり、次の世代にとって良き手本となること、といったことを指摘している。

「四つのテスト」原文

THE FOUR-WAY TEST

Of the things we think, say or do :

- 1) Is it the TRUTH?
- 2) Is it FAIR to all concerned?
- 3) Will it build GOODWILL and BETTER FRIENDSHIPS?
- 4) Will it be BENEFICIAL to all concerned?

① 英語のタイトルにある Four-Way は「四つ辻」「四方に通じる」「四方向の」という意味です。Test は単数ですから、「四つのテスト」は「四方向（多方面）から見た一つのテスト」という意味合いです。4項目は独立した個々のチェック項目ではなく、全体として判断や言動の妥当性を問うています。

② 前文の邦訳は「言行はこれに照らしてから」ですが、原文にある think が訳されていません。事の是非を問うときに、「まず考える、そして判断する」ステップが欠かせないと思うのです。think という大事な単語が訳されなかったことは不思議ですね。

③ 項目2の FAIR は「公平」ではなく、取引上の「公正」さを示していると思われます。

④ 項目3の GOODWILL は、個人的な「好意」というより、(店や会社の)「信用」「評判」「のれん」を意味します。

⑤ 項目2と4の all concerned は、漠然とした「みんな」ではなく、「関係者すべて」。関係者とは、従業員、顧客、業者、取引先、株主等、その会社の事業に関わりのある人すべてを意味します。

